

問1 明治維新の改革の一つである「版籍奉還」の内容を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 藩主が持っていた領地と領民を天皇に返し、旧藩主は知藩事に任命された。
2. 藩を完全に廃止して新たに県を設置し、中央政府から府知事や県令を派遣した。
3. 土地の所有権を認めるとともに、地価の3%を税として現金で納めさせた。
4. 武士に与えられていた家禄などの特権を廃止し、軍隊や官吏の給与を整えた。

問2 明治維新後の1871年に文部省が設置され、その翌年の1872年に公布された、6歳以上のすべての男女が小学校教育を受けることを目指した教育制度を何とといいますか。（2017年 山形県公立入試 類似）

1. 学制
2. 教育勅語
3. 教育基本法
4. 五箇条の御誓文

問3 明治政府が1872年に「学制」を公布した際、その背景にある考え方や目的として、当時の時代状況に合致するものはどれですか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 国民一人ひとりが知識を身につけることが、個人の立身出世と国家の近代化の両立につながると考えた
2. 江戸時代から続く寺子屋での教育を廃止し、西洋の宗教教育を全国に普及させることを目的とした
3. 労働組合の結成を奨励し、労働者の権利を教育によって守ることで産業の発展を図ろうとした
4. 地方ごとの独自の文化を尊重するため、地域ごとに異なる教育内容を自由に決定させる制度を目指した

問4 明治政府が、租税の納入方法を従来の米から現金へと変更し、税率を地価に基づき固定した主な目的として、最も適切なものはどれですか。（2019年 愛媛公立入試 類似）

1. 豊作や不作による収穫量の変動に関わらず、政府が安定した税収を確保するため。
2. 農村での貨幣経済の浸透を抑え、農民が米の生産に専念できるようにするため。
3. 土地の所有権を政府に一本化し、農民から土地を回収しやすくするため。
4. 米の市場価格を安定させ、都市部で働く労働者の生活を守るため。

問5 1868年から始まった戊辰戦争において、旧幕府軍が最終的な拠点として立てこもり、最後の激戦地となった北海道函館市にある星形の城郭を何とといいますか。（2024年 徳島公立入試 類似）

1. 五稜郭
2. 鶴ヶ城（若松城）
3. 江戸城
4. 大阪城

問6 明治維新时期、新政府が中央集権体制を確立するために実施した一連の改革について、古いものから順に並べた際に、3番目にあたる出来事を選択してください。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 藩を廃止して県を置き、中央政府から府知事や県令を派遣した廃藩置県
2. 江戸幕府の廃止と天皇中心の政治への復帰を宣言した王政復古の大号令
3. 全国の藩主から土地と人民を天皇に返還させた版籍奉還
4. 土地の所有者に地券を交付し、地価の3%を現金で納めさせた地租改正

問7 明治初期の様子を描いた劇において、徴兵検査に合格した次男が家を離れることになり、さらに満6歳になった末っ子が小学校に通い始めることで、貴重な労働力を失うことを嘆く農民一家の場面があります。このような国民の負担増を伴う改革を明治政府が推し進めた、最大の目的は何ですか。（2023年 島根公立入試 類似）

1. 軍事力を強め、経済を発展させて欧米に並ぶ国力をつけるため
2. 土地の所有権を明確にし、地価の3%を現金で徴収して税収を安定させるため
3. 江戸時代の身分制度を廃止して、すべての国民を平等にするため
4. 藩を廃止して県を置くことで、中央政府による統治を徹底するため

問8 1880年代の日本において、井上馨や大隈重信らが外務大臣を務めていた時期、政府は鹿鳴館での舞踏会に代表される「欧化政策」を積極的に進めました。このように日本の生活様式や制度を急速に西洋化しようとした最大の目的として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 佐賀公立入試 類似）

1. 日本が欧米諸国と同等の文明国であることを認めさせ、幕末に結ばれた不平等条約の改正交渉を有利に進めるため
2. 領事裁判権（治外法権）の撤廃のみを目的として、日本の伝統的な文化や宗教をすべて廃止し、キリスト教を国教化するため
3. 関税自主権の回復のみを目的として、日本の工業製品の輸出額を増やすために、関税率を日本側が自由に決定する権限を誇示するため
4. 欧米諸国から大規模な借金を行うために、日本の近代化が完了していることを示し、富国強兵に向けた軍事予算を確保するため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>藩主が持っていた領地と領民を天皇に返し、旧藩主は知藩事に任命された。</b>	藩主が領地（版）と領民（籍）を天皇に返還したあとも、旧藩主は「知藩事」として引き続き各藩の統治にあたりました。この時点ではまだ藩の仕組み自体は残っていましたが、後の「廃藩置県」によって藩そのものが廃止され、中央集権化がさらに徹底されることとなります。
問2	<b>答え 1</b> <b>学制</b>	明治政府は、欧米諸国に対抗できる近代国家をつくるために、国民全体の知識水準を向上させる必要があると考えました。そこで1872年、フランスの制度を参考に日本初の近代的学校制度の基本法令を定め、身分や性別に関係なく教育を受けさせる「国民皆学」を目指しました。
問3	<b>答え 1</b> <b>国民一人ひとりが知識を身につけることが、個人の立身出世と国家の近代化の両立につながると考えた</b>	学制の公布に際して出された「被仰出書（おおせだされしよ）」では、教育は個人の立身出世のためであり、それが結果として国家を富ませるという実学的な考え方が示されました。これは江戸時代の身分に応じた教育から、個人の能力を重視する近代的な教育への転換を意味しています。当初は重い学費負担などから反対運動も起きましたが、政府は中央集権的な教育体制を整えることで近代化を急ぎました。
問4	<b>答え 1</b> <b>豊作や不作による収穫量の変動に関わらず、政府が安定した税収を確保するため。</b>	江戸時代の年貢制度では、収穫量に応じて納める量が決まっていたため、凶作の際には政府（幕府や諸藩）の収入が激減する欠点がありました。近代化を進める明治政府は、軍隊の整備や殖産興業などの多額の費用を必要としていたため、毎年の予算を立てやすくするために、収穫量に左右されない「地価」を基準とした固定税率と現金納付を導入し、安定した財政基盤を築こうとしました。
問5	<b>答え 1</b> <b>五稜郭</b>	戊辰戦争は1868年の鳥羽・伏見の戦いに始まり、東北での戦いを経て、1869年に北海道の函館にある五稜郭で旧幕府軍が降伏するまで続きました。五稜郭は西洋の築城技術を取り入れた星形の城郭で、幕末に北方警備の拠点として造られたものです。
問6	<b>答え 1</b> <b>藩を廃止して県を置き、中央政府から府知事や県令を派遣した廃藩置県</b>	明治新政府はまず、1867年に「王政復古の大号令」を発して新政府の成立を宣言しました。その後、1869年に「版籍奉還」によって名目上で土地と人民を天皇へ返させましたが、旧藩主が引き続き地方統治を行っていたため、1871年に「廃藩置県」を断行して中央集権化を決定づけました。最後に、国家財政の基盤を固めるために1873年から「地租改正」が始まりました。
問7	<b>答え 1</b> <b>軍事力を強め、経済を発展させて欧米に並ぶ国力をつけるため</b>	当時の日本は、欧米列強による植民地化の脅威にさらされていました。これを防ぐには、徴兵令によって近代的な軍隊を組織し、学制によって近代産業を支える国民を育成する必要がありました。この「富国強兵」を目指した政策は、一方で農村にとっては働き手を奪われるなどの重い負担となり、各地で反対一揆が起こる原因にもなりました。
問8	<b>答え 1</b> <b>日本が欧米諸国と同等の文明国であることを認めさせ、幕末に結ばれた不平等条約の改正交渉を有利に進めるため</b>	明治政府にとって、江戸幕府が結んだ不平等条約（領事裁判権の容認、関税自主権の欠如）の改正は、近代国家としての主権を確立するための最重要課題でした。欧米諸国に対し、日本が近代的な法典や制度を整えた「文明国」であることを視覚的・文化的にアピールすることで、対等な立場での交渉を引き出そうとしました。その一環として、1880年代には鹿鳴館に代表される極端な西洋化政策（欧化政策）が行われました。